



私の好きな風景 ①

スケッチ画と文

新興美術院富士支部

菊池 征寿さん

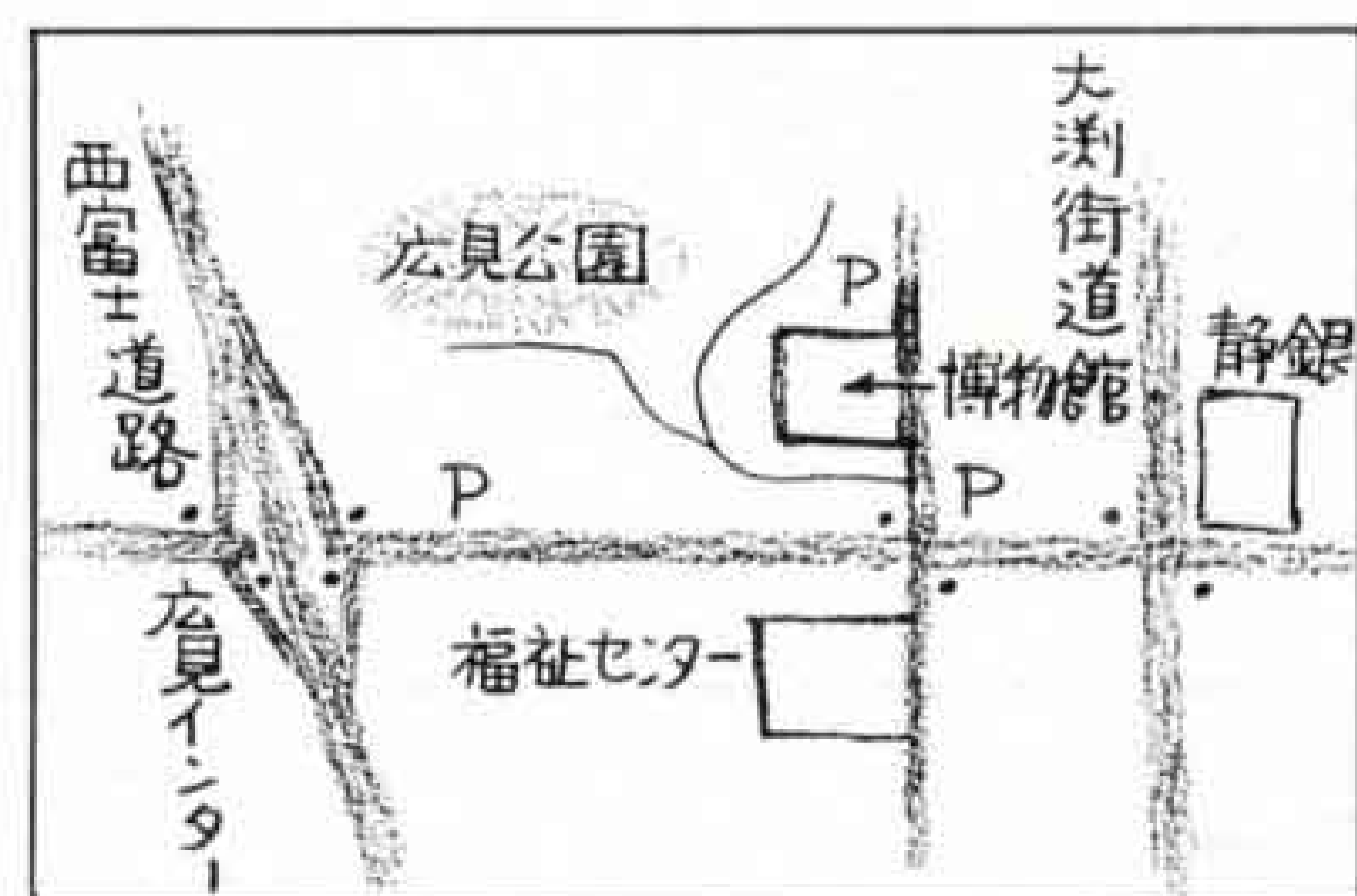
富士市大淵一七四一七二

広見公園

私は職業柄、各地をスケッチ旅行しています。自分が住んでいるので、身びいきするわけではないのですが、富士の町並みが一番よいと思います。旅の帰途、疲れた視野に白い煙をたなびかせている煙突を見ると、ほつとします。

私の家は、そんな好きな町の、緑に囲まれた高台にあります。制作に疲れたり、表現に詰まると、足を向けるのがこの公園です。林の中をめぐる小径に博物館があり、長屋門、松永家、眺峰館などへと、さわやかな風が導いてくれます。

ちよつと道から外れて背伸びをすると、雪化粧をした富士山がほほ笑んでくれます。暑いときには木陰に涼風をそよがせ、寒いころには、丘の懐に日だまりをつくってくれます。四季によつて趣を変え、心にねがらいを与えてくれます。特に、梅の開花に始まり、桜からツツジへと彩りを塗りかえるそのころが、私は一番好きです。



こちら編集室

桜前線の北上に合わせ、3階から8階の編集室へやってきました。3月まで福祉の仕事をしていたので、「福祉で養った感性を生かした広報ふじをつくるぞ！」などと最初は意気込んでいたのですが、実際は写真の現像、編集など覚えることが多く、とてもとても…催し物会場で小さなカメラ(体が大きいので小さく見えるらしい)でずうずうしく写真を撮っているやつを見かけたら、それは私です。なお、4.20号の表紙に写っているので捜してみてください!

「人の顔は履歴書だ」と言った人がいます。取材で何人もの人に出会っていると、最近では「本当にそうかもしれない」と思います。今回は、教育文化奨励賞を受賞された方々にお会いしました。皆さんとてもいい顔で、しかも含蓄のある自分の言葉で話されます。一つの道をきわめるには、悔しさや悲しみだって、きっとあったでしょう。ぜいたくな時間を持てる今の境遇が、素直にありがたく思えるころです。(仕事に目覚めた私)

広報ふじは環境にやさしい再生紙を使っています